

令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要について

井原市教育委員会学校教育課

Ⅰ 実施の概要

(1) 目 的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実 施 日 令和7年4月17日(木)

(3) 参加状況 市内13小学校6年生243人 5中学校3年生248人

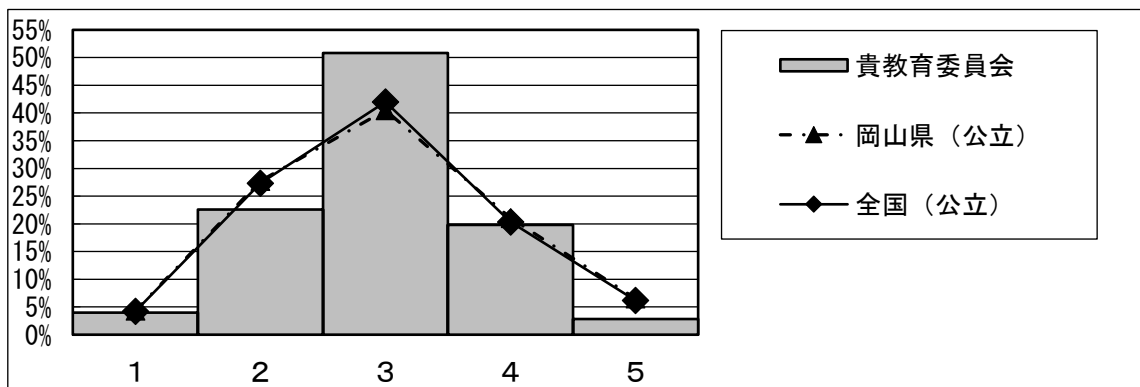
(4) 調査内容 ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科【中3理科は CBT】)

②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

2 井原市の学力調査の状況 (平均正答率% ※中学校理科は平均 IRT スコア)

	小学校6年生			中学校3年生		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
井原市	64	55	55	55	45	50
岡山県	67	56	57	55	48	50
全国	66.8	58	57.1	54.3	48.3	50.3
県比較	▲3.0	▲1.0	▲2.0	0	▲3.0	▲3
全国比較	▲2.8	▲3.0	▲2.1	0.7	▲3.3	▲2

3 中学校3年理科(CBT) IRT バンド分布グラフ



4 教科・領域別にみた調査結果概要（全国平均正答率との比較％）

	話す・ 聞く	書く	読む	言葉 ※		数と 計算 数と式	図形	変化と 関係 関数	データ の活用
小国	▲3.5	▲2.4	▲1.0	▲10.5	小算	▲1.2	▲4.8	▲8.6	▲2.0
中国	0.2	1.9	1.0	0.7	中数	▲3.4	▲6.8	▲1.3	0.7

※「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

5 質問紙調査結果（肯定率％）

肯定的回答率		①意義 国語	②意義 算数・ 数学	③主体 的な学 び	④対話 的で深 い学び	⑤自己 調整力	⑥学習 1h以 上	⑦夢・ 目標	⑧自己 肯定	⑨ICT 使用
小 6	井原市	89.3	93.8	82.3	82.3	82.3	59.3	61.3	86.4	46.9
	岡山県	90.3	91.7	77.8	84.3	78.1	58.1	59.5	87.3	57.1
	全国	90.4	91.6	80.3	84.9	79.4	54.0	60.7	86.9	46.7
	県との差	▲1.0	2.1	4.5	▲2.0	4.2	1.2	1.8	▲0.9	▲10.2
	全国との差	▲1.1	2.2	2.0	▲2.6	2.9	5.3	0.6	▲0.5	0.2
中 3	井原市	93.9	81.0	82.7	87.1	81.9	56.0	43.1	83.1	54.5
	岡山県	88.5	76.7	76.7	84.4	72.7	54.5	36.5	87.4	57.4
	全国	88.3	75.2	77.7	84.7	73.4	61.6	35.5	86.2	53.2
	県との差	5.4	4.3	6.0	2.7	9.2	2.5	6.6	▲4.3	▲2.9
	全国との差	5.6	5.8	5.0	2.4	8.5	▲5.6	7.6	▲3.1	1.3

※学習状況調査の分析については、県の方針に則り、以下の県重点9項目について行う。

- ①「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」
- ②「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」
- ③「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」
- ④「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」
- ⑤「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」
- ⑥「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習1時間以上と回答した児童生徒の割合）」
- ⑦「将来の夢や目標を持っていますか」（「当てはまる」と回答した児童生徒の割合）」
- ⑧「自分には、よい所があると思いますか」
- ⑨「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」（「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合）」

6 考察

- 小学校算数、中学校国語・数学では「意義」が全国値を上回っている。学んだことが将来に役立つと、学習する意義を見出せている児童生徒が多いことがうかがえる。
- 小中学校ともに「主体的な学び」「自己調整力」が全国値を上回っている。各校で児童生徒が課題の解決に向けて自分で考えることや、学習した内容を振り返り次の学習につなげることができていることがうかがえる。
- 小中学校ともに「夢・目標」が全国値を上回っている。特に中学校は5ポイント以上高い。児童生徒に目標を持たせたり将来について意識させたりする活動が行われていることがうかがえる。
- ▲小学校国語・算数、理科、中学校数学では平均正答率が全国平均を下回っている。誤答分析を行うとともに、現在各校で行っている学力向上の取組について検討を行う必要がある。
- ▲中学校では「学習1h以上」が全国値を5ポイント以上下回っている。生徒が意欲的に家庭学習に取り組むための工夫が必要である。
- ▲小中学校ともに「自己肯定感」が全国値を下回っている。成功を実感する機会や、自分の頑張りを認識する場面を意図的に設定する必要がある。

7 今後の対応

- (1) 基礎基本の確実な定着を目指し児童生徒が「わかる・できる」と感じられるよう授業改善に取り組む。また、校内で校長先生を中心に組織的に授業改善の取組が推進される風土の醸成に努める。
- (2) 調査結果の誤答分析を行い、授業における扱う学習内容について検討を行う。また、基礎基本の定着やつまずきの解消を図るための取組を組織的に行う。
- (3) 児童生徒が家庭学習に取り組む意義を感じ意欲的に取り組むことができるよう授業とつながる宿題（予習・復習）を設定する。授業における1人1台端末の利用を進め、家庭学習においても利用場面を適切に設定する。
- (4) 児童生徒が自分で決めたことをやり遂げられるような学習活動を設定し、自己の変容を認識できるよう振り返りを充実させることにより、児童生徒の自己肯定感を高める。
- (5) 井原市学力向上対策研修会を実施し各校の取組の共有を図る。他校の取組を参考にすることで自校の取組の改善につなげる。